

第3回遊佐町立学校適正整備審議会 会議録

会議日時 平成30年6月28日（木曜日） 19時00分～21時00分

会議場所 遊佐町役場 議事所

出席者 伊藤 順一（遊佐町小中学校長会会長）
松本 三也（遊佐町小中学校長会）
太田 くみ（蕨岡まちづくり協会）
佐藤 憲三（遊佐地域づくり協議会）
眞嶋 一（稲川まちづくり協会）
伊藤 悦子（西遊佐地区まちづくりの会）
小田原 裕（高瀬まちづくりの会）
今野 博義（蕨岡小学校PTA会長）
川俣 善幸（遊佐小学校PTA会長）
高橋 智（藤崎小学校PTA会長）
阿部 勝志（高瀬小学校PTA会長）
畠中 裕之（吹浦小学校PTA会長）
那須 正幸（遊佐中学校PTA会長）
池田与四也（遊佐町総務課長）
伊藤 新一（遊佐中学校教育後援会会長）
伊藤 淳子（杉の子幼稚園園長）
佐藤 美紀（前遊佐中学校PTA副会長）

欠席者 佐藤 浩毅（吹浦地区まちづくり協議会）

傍聴人 なし

協議事項 (1) 第2回遊佐町立学校適正整備審議会会議録の承認
(2) 資料の説明（第2回審議会での課題等）
(3) 意見交換
①各地区の町立学校適正規模にかかる意見等について
②具体的な統合時期等について
③その他

※以下、赤字の部分については個人情報取扱いの観点より公開は控えさせていただきます。

協議内容の概要

伊藤会長 前回は皆様のご意見、思いを合わせてご発言いただいたところでございます。内容については会議録で事前にお送りさせていただきましたのでご覧になっていたかと思っております。

今日は3回目ということでございます。そろそろ総意を皆さんとともに練り上げ、そして肉付けをしていければいいと思っております。今日の審議会が有意義な会になりますようご協力をよろしくお願い申し上げまして簡単ではございますがあいさつに代えさせていただきます。よろしくお願いたします。

教育課長 ありがとうございます。伊藤会長には胃の痛い思いをずっとさせておりますが、

よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは協議に入る前に前回の経過報告をさせていただきます。前回5月24日開催を致しまして最初に松本校長先生に委嘱状の交付をし、第1回の会議録の承認を得たところになっております。それから第1回から引き続き資料の説明をさせていただきます。その後、皆さま方からご意見を頂戴したということになります。意見の中では、最終的には遊佐町1小学校が適当ではないかというお話だったと思っております。それを会議録として皆さま方にお届けしておりますので、のちほど署名していただければと思っております。それでは協議の方に入らせていただきます。伊藤会長お願ひいたします。

伊藤会長　それでは暫時の間、進行を務めさせていただきます。ご協力をお願ひいたします。お手元の次第、4. 協議に入らせていただきます。(1) 第2回遊佐町立学校適正整備審議会会議録の承認でございますが、皆さまのお手元に届いております会議録を確認いただきましてご承認いただけますでしょうか。挙手お願ひいたします。

(全員挙手)

ありがとうございます。全員挙手ということでありありがとうございます。承認いたしました。続きまして、(2) 資料説明に移ります。第2回審議会での課題等について、事務局からお願ひいたします。

教育課長　それでは資料の説明をさせていただきます。皆さまのお手元には、前回指摘を受けました遊佐小学校と遊佐中学校の見取り図とその許容人数という形で書いた物を送らせていただいております。本日ご持参していただけなかった場合はこちらで資料がございますので申し出いただければと思ひます。

本日、資料1として第1回目に皆さまに配布させていただきました児童数の推移を今回6月1日現在で再度、集計しましたのでそれを配布させていただきました。まずは資料1の説明をさせていただきます。これまで第1回目を2月に開催してから6月までの間に児童の異動があったようでございまして、例を申しますと34年度の高瀬小学校が2、3年が8と8の児童数になってございますけれど、前はこれが7と8だったかと思ひます。1名増えております。1名増えましてもこの時点では網掛けなっているところが16名以下ということになりますから複式が生じることに変わりございません。ただ蕨岡小学校の平成35年度から2、3年生が10、7人、今回1人増えております。前回10、6人のはず。ここも1名増えた形になっておりますのでこの網掛けについては1名減すると複式になる可能性があるという形の網掛けでございますので、本当は網掛けしない予定でしたが、間違っただけでございますがここは複式にはなりません。よろしくお願ひいたします。これまでの町の移住定住の施策が実ってきたのか、児童数に少しずつ変化がございまして増えているという状況があるようでございます。最終的に増えた結果も踏まえまして、資料1の1番下に必要な学級数も載せてございますけれど、それについても平成34年度の1番下、計の欄でございますが、居住学級数が13でありますけど計は19学級、1つの小学校にした時はこの学級数が必要になる形になるようでございます。その辺も平成35年度の学級数も少し変わっているかと思ひますけどよろしくお願ひいたします。今後も随時こういった資料は出させていただきます児童数の変化も提供させていただきますと思ひます。それから送付をさせていただいた遊佐小学校と遊佐中学校の見取り図関係の説明については担当の伊藤主査より説明させてい

たきます。

伊藤主査　　こんばんは。教育委員会総務学事係の伊藤と申します。よろしくお願ひします。事前に図面の資料を提出させていただいておりましたけれども、その資料について説明させていただきます。遊佐小学校と遊佐中学校の物理的な収容人数について、初めに遊佐小学校の図面について説明していきたいと思ひます。資料の1ページのとおり、遊佐小学校の普通教室につきましては図面記載のとおり全部で14クラス分が整備されています。遊佐小学校の場合、普通教室の脇にオープンスペースを設けている造りになっておりまして、基本的に仕切りがないような構造となっているようです。普通教室の1フロア辺りの面積につきましては、図面記載のとおり見にくいですが75平米で1クラス整備されている状況です。仮にこちらに赤字で記載させていただいたが、山形県の場合、さんさんプランということで33名で学級編成がされているということで、その14クラス分、物理的には462名の収容が可能ということになりますが、教育委員会だより等でお示したように、平成35年で想定させていただきますと小学生の人数が453名ということになりますので物理的には収容できるように見えるわけでございます。ただ平成35年における1年生が82名と想定されていますので、2クラスではなく3クラスになってしまう。それ以外の学年も同じようにそういったことが想定されますので、14クラス分では遊佐小学校では収まらないことが想定されます。

次に遊佐中学校、資料P2～4まで図面を付けさせていただいております。こちらにつきましては、普通教室、各学年で7クラス分整備されています。1年～3年、3階まで含めると21クラス分普通教室が整備されています。中学校も仮に平成35年度を想定しますと、中学生の人数が291名。291名のうち1年生が109名、2年生が91名、3年生が91名。1クラス33名を上限に計算してみますと10クラス。21クラス整備されていますので、10クラス分差し引きまして11クラス分空き教室となることが想定されます。以上、参考資料として図面の説明をさせていただきました。

教育課長　　なお資料1で平成35年度小学校の合計456名となっております。若干前回の資料として図面には書いておりましたので数字が少し違っておりますが、そんな感じとなっておりますのでよろしくお願ひします。

伊藤会長　　ありがとうございました。ただ今の資料説明について、何かご意見ご質問等あれば挙手の上お願ひします。

松本委員　　教えていただきたいのですが、遊佐小学校のさんさんプラン、33名×14クラスで462名のキャパシティがあるということで平成35年度の数453名なので収容できるという説明だったが、各学年の学級数がありますので、資料1に出ている35年の時は17クラスが必要になるので、ここは人数でクリアしても実際には収容できないということですね。

教育課長　　その通りです。

伊藤主査　　申し訳ございません。先ほど説明させていただいたのは収容できるというところにつきましては、さんさんプランはなしとして物理的に遊佐小学校に収容できると説明させていただきました。さんさんプランに例えると17クラスとなりますので収容できない。

教育課長　　お見込みのとおり3教室足りなくなる形で、それは普通学級だけで特別支援学級はまた別個必要ということになります。

松本委員 ありがとうございます。

伊藤会長 その他にございませんでしょうか。

今のご説明では35年度の人数、児童数456名となっておりますが、遊佐小学校のキャパシティ462名収容できる、だから収容できると、しかしながらさんさんプランでいくと教室が多く必要になってくる。それが3ルーム足りない。ということでご理解いただきたい。

その他ございますでしょうか。

今野委員 ただいまの説明だとまずクラス3つ足りないことと特別支援学級のクラスを見込んでいないということでその教室が足りないことになると思うのですが。私よく分からないが、例えば理科室であったり家庭科室であったり音楽室とかは、これだけのクラスがあって1つで足りるものなののでしょうか。そこについてはいかがでしょうか。

伊藤会長 事務局お願いいたします。それより先生の方がいいでしょうか。

教育課長 そうですね。こちらの方としては今のところ教育課程の中で何時間理科の時間があるのかとか、いろいろ計算しないといけないと思いますので今のところ、その時に在籍する人数に応じてのクラス数でしか計算はしておりませんでした。特別教室のことについてはわたしの方では説明できかねます。

伊藤会長 参考までに伊藤先生からお願いします。

伊藤(順)委員 特別教室と呼んでいる。家庭科室、図工室、理科室、3つについては、家庭科室は特に5、6年生の家庭科の時間、実数にするとだいたい週1.5くらい、図工室は作業の時に使う、教室でやる場合もあるので図工だと週2時間、各学年にありますけれども作業の場合に使う。理科室については、特に実験等が入る場合高学年に多いです。観察や生き物調べの部分では理科室、顕微鏡などを使う場合はやりませけれども、そういった意味では毎日全部使うわけではないので、その時間をクラスで割っていく、週の時間を教室割で割っていくことからすると十分と言えるかはどうか割ってみないと分からないが、使用は可能であると思います。

教育長 体育館はどうですか。

伊藤(順)委員 体育館も、体育は各学年とも週2.5～3時間、体育館とグラウンド、雨の時は体育館しか使えなくなるが、それも17学級で週28時間を割っていく。体育館全部を使うことは難しいですが、体育館とグラウンド、天気のいい時は体育館を使う学年とグラウンドを使う学年と考えれば、十分とは言えないが使用はできると考えています。

教育長 酒田のもっと大きい学校もある。

今野委員 ありがとうございます。考え方が教室に入れるか入れないかが中心になってしまっている他の部分の施設が対応できるのかできないのかが気になったものですから、聞かせていただきました。ありがとうございます。

伊藤会長 他にございますでしょうか。

教育課長 今、今野委員からお話が合った通り教室だけでなく、教育長から職員室の話もありました。あと調理室とか付帯施設は必ず考えていかなければいけないことですので、それはあくまでも付帯事項という形で付随することは、あとで今回の答申の中で決めていきたいと思っておりますので、その時に協議をお願いしたいと思っております。

教育長 具体的にできるもの、またどれだけ窮屈なのか、これは大丈夫、これは8割方大

丈夫、職員室はまずは大丈夫でしょうということで聞いております。

伊藤会長

ありがとうございました。その他、資料説明からのご質問等承りましたが、他にありませんでしょうか。ないようでしたら進めさせていただきます。(3)意見交換に入ります。①各地区の町立学校適正規模にかかる意見等について、先般第1回目は個々の委員の皆さんの意見、思いを込めて発言いただきました。今回は地域の意向といえますか、意見等をこの場で発表いただいて地域の方を整理してまとめていきたいと思っておりますので、またPTAの今野委員からよろしくをお願いします。

今野委員

では蕨岡の方から進めさせていただきます。前回の適正整備審議会がありまして今回までが1ヶ月、各PTAに通知を出しまして意見交換会を開きました。具体的に人数は多くなかったが、やはり保護者たちの中でも関心が高かったようでした。最終的に1つになる部分に関しては皆さん理解をしているということでよろしいと思います。ただ意見交換会の中で出た話の中で、例えば34年に複式が発生するからと言うことでそこを目途にという話が現在出ているわけですが、実際小学校として入れる規模の学校がないということが保護者にとっては、「新たに増設するのか」というところが疑問に思っているところでした。「いわゆるお金をかけて増築するのはいいけれども、最終的には人数が少なくなればそこは使わなくなる。今1つにならなきゃいけないものなのか」という意見が参加された方からは非常に多く出ました。具体的に進めていけば、今度はスクールバス問題、そういったところを気にされている保護者も多いようです。それから小学校1校、中学校1校ということになるので、例えば今と違って他の学校との交流がなく、1つの学校で1年生から6年生まで全部過ごすという形になりますので、やはり蕨岡に関しては今余りないが、「なかなかクラスに馴染めない、1年生で馴染めなかったものがずっと人の入れ替わりがない中で6年間同じようにいってしまう子が出てくるのではないかと保護者の話の中から出てきました。1番は「教室が入れない」というところを気にされているようです。その部分について、「何年に1校というのはいいいが、具体的にどれくらいお金がかかるのか、そこが見えてない中で、どんどん進めていって1校とそのために教室建て増ししますと、そういった流れは違うのではないかと」という意見がでました。

伊藤会長

ありがとうございました。川俣委員をお願いします。

川俣委員

遊佐小学校といたしましては、蕨岡さんのようにまだ意見交換等はしておりません。私の方にも具体的な統合の質問等はきていないのでないですけれども、父兄の方たちも心配されている事と思っておりますのでこれからPTAのほうで集まって意見交換等していきたいと思っております。

高橋(智)
委員

藤崎小学校の高橋です。前回は欠席してしまってすみませんでした。藤崎小学校の方でもまだ保護者から意見の吸い上げの機会がございませんので、具体的な話し合いはありません。ただ学校の運営委員会の中で、地区で行われている行事を学校と絡めているものが藤崎小学校はいくつかございます。そういったものについて、例えば「統合になった場合にはどのような関わりを持って行くのか」というところが運営委員会の中で議題になりました。やはり今まで続けてきた、今年はコミュニティ・スクールが発足しましたので、そのあたりが「統合になった時点においてどのように継続していくことができるのか」という風に他の地区でも当然色々な行事があってそれを各学校が関わりを持ってやっていく事たくさんあると思っております。

で、そのあたりについて「どのように継続させていくのか」話題になりました。これからは、資料などを見てもみますと適正整備審議会を各地区、開かれたものにするということですので、保護者の中にこの話を持って行って意見を吸い上げてきたいと思っています。

阿部委員 高瀬小学校の阿部です。高瀬小学校では、前回の会議の後に理事会がございまして、話題にさせていただきました。全体を集めてという会は設けてないが、理事会だよりも「この委員会が始まっています。学校の適正整備審議会が始まっています」と意見を募集しますという形でアンケートではないが、意見募集のチラシを配らせていただいて、まだそのまとめはできておりません。理事会の中で理事メンバーに率直なご意見を聞いたところでは、対象者の保護者の方がいらっしゃって、実際の複式学級がどんなものなのか理解していない。保護者、私もそうですが、具体的に複式学級はどういう感じなのか分かっていない。先生方から一応説明は受けて「それはあまり良くない」感じのニュアンスの方もいらっしゃいました。また、この委員のメンバーに統合になる時にちょうど保護者になる、まだ小学校に入っていない保護者の皆さんの意見が反映されているのかどうかも心配していた感じです。このデータでも見るとおりまず高瀬小学校が1番初めに複式になるということで、そこを目指せば、どんどん進んでいくのかも知れないが、先ほど蕨岡の今野さんがおっしゃったようにデータでもわかるように建物がまず入れない。そこを同じように心配してしまして、町の方でそこにかかる予算、そこがクリアできるのか、できないのか。そこが私たちには全然判断できない。その辺も含めながら全体の意見、やはり予算をかけない状態の時期、そういったところを目標値に設定した方がいいのではないかとこの意見も出ておりました。

畠中委員 吹浦小学校です。うちの学校では1度だけ参加者は多くありませんでしたが、主に下学年の家庭を対象にちょっとしたここまでの経緯を説明と意見があったらと、集まっていた。そこで出たのも蕨岡の今野さん高瀬の阿部さんがおっしゃったことと同じで今統合、34、35年あたりで統合した時の人数の問題、複式のデメリット、これは前回の会議の時にいただいたまとめた資料を提示した。複式のデメリットの他にデメリットを避けるために統合した場合の教室の数が足りない問題。それからこれも先ほど皆さんからあった登下校のバス問題。それからもう1つ出たのは、吹浦では放課後子どもクラブということで、遊佐では学童を吹浦では独自にやっているわけですが、「それは統合した場合どういう形でなるのか」例えば、「遊佐の町内でみんなやれるのか」「人数的に厳しいのではないのか」あるいは「吹浦の子どもたちは吹浦で今までと同じようにするとバスの送迎はどうなるのか」あるいは「子どもクラブに入らない子どもの帰りのバスの時間はどうなるのか」結構、核家族、祖父母がいない、両親しか普段いない。両親共働きという家庭もそれなりにあります。そういう家庭のお父さんとお母さんたちは、「放課後のその辺がどれだけ変わってくるのか」かなり不安な様子になっているようです。言われているのは、「その辺の判断ができる材料が欲しい。」今回こうして遊佐町の収容人数とか具体的なデータで出していただいて、これをみんなにまた配布して意見を募ろうかと思っていますが、とりあえず、「判断するための材料がないので意見をとんでも判断のしようがない。」というのが大多数の意見でした。

那須委員 遊佐中学校の那須です。中学校では小学校の統合の話は出ておりません。ただ、今回私、吹浦地区でまち協にお邪魔してお話を伺うことができました。吹浦から見

ると吹浦まつりがありまして、5、6年生がほたるみこしという神輿を担いでいます。その際に学年委員長が窓口になっておりまして、PTA会長が協賛会という形で参加していただいて、5、6年生の学年委員長が窓口という形になっておりましたので、例えば「そういう祭り関係の統合した時の吹浦地区の5、6年生の取りまとめを誰がするのか」「まちづくり協議会の中での用事を行う時に例えば、遊佐地区は遊佐地区、各地区の窓口を誰がするのか」そういったところの困難な疑問点が出ていることは多々あります。ただその他については、先ほど今野さんからも話がありましたけれども、私個人としては遊佐小学校に人数的にクラスが足りないということであれば、「どれくらいの規模で町の方から予算を取っていただいて施設増設などの予算が取れるのかどうか」というところと、一番大きく出ているのが「どれくらいの年数で統合になるのか」というのが地域の方々から出ているようです。「ただ統合につきましては避けて通れない」というお話も出ていることは確かだと思います。

伊藤（淳） 伊藤です。前回お話したとおりですが、今、皆さんのお話を伺ってそれから前回の資料をまとめたものを何度か読み直して、その中で教育長が言っていたように「まず子どもたちのことを第1に考えましょう」ということで私もその通りだと思う。今色々な課題が上がっていますが、それはある程度、子どもたち、1桁の学級があるとできない活動があります。これを経験させたい活動が人数が足りないことでできないことはとてももったいないことです。ある小学校では多くの子どもたち、児童がいるので十分に経験できている。そういうところで平等性が欠けるのは、私は望めません。まずは子どもたちのことを思えば統合に向かって進めて、その中で皆さんから上げられた課題を、ではどうしたらプラスに変えていけるだろうというところを話し合えればと思っております。あと数字的なところで1桁の学級、学年がこんなにたくさんあるので、私としてはできる限り早くということ子どもたちのために「ゆざっ子10ヶ条」が目指す、「早起き 朝ごはん 躍動 早寝」の笑顔の輝くゆざっ子になるように進めていただければと思っております。

佐藤（美） 佐藤です。地域の意見ということではないですけれども、資料から子どもたちが一緒になるための建物がないということでしたので、学校というのは、人や物の交流がありますので、人や物の動きが大きいものと思います。不勉強な意見で恥ずかしいところもありますが、遊佐のまちづくり、都市計画はあるのでしょうか。学校はすごく大事な施設だと思うので、まちづくりの観点からしても、既存の建物を使うのもいいですが、今は入れる建物がない。将来的に遊佐町がどういうまちづくりをしていくのかを考えた時に、例えば、新設することも考えてもいいのかと思ったりとかした。子どもたちもそうですが、高齢者又は交通弱者といいますか、私たちは車を運転できるのでいいですけれども、車の運転できない、行きたいところに行けない人たちも住みやすい町になってもらったならと思っている部分もあるので、駅周辺であるとかそういうところにバスが回ってこれるような、スクールバスも例えば、町で所有しなければならぬものという考え方ではなくて、バス会社と提携して、パスみたいなものを使って通学とか部活動、試合の送迎にも使ってもらえるような、提携を結んでもいいのかなと思ったりもする。町の方でどういうまちづくりを考えているのかということも知りたいと思いました。

小田原委員 高瀬まちづくりの会の小田原と申します。6月25日に地区長が全員集まりまして、その時にこういう会があったのでご意見を伺いたいと、地区長から1人ずつご

意見を伺いました。意見ですので、「1校いきなりするのは大変だから1校ずつした方がいい」「3校ずつした方がいい」と最初言っていたようですが、結局「どんな組み合わせしても不満は出ると決まっている、やっぱり1校がいい」という話になりました。結局今は本当に世界中から観光客が遊佐町にもやって来るような時代になりましたので「遊佐町は1つなんだ、学校も全部1つなんだ」という意味合いでやった方がいい。今は1人ずつタブレットとか教育していかなければいけない時代になってきたから、学校がいっぱいあればそういうものもどっさり使わなければいけないし、1つだったらそれで済むのではないか、そういう面も考えなければならぬ。ただ建物が入るのが問題というお話でございました。複式のことでも出まして、「デメリットもあるけど」と言ったら、ある方が「それは先生がんばればなんとかなる」と、「先生がんばってほしい」、だからちょっとでも複式できそうだからするのではなく、「少しはがんばってほしい」ということでした。さっきからあるように「高瀬小学校の独自の行事をどのように対応していただけるのか」地区長からは心配だと、最後に「こうした会議に出たやつを報告していただきたい」ということ「広報とかで進捗状況を文章は多くなくていいので、見て分かりやすいようにしていただきたい」というお願いでした。

伊藤（悦） 西遊佐、伊藤と申します。藤崎小学校の件ですけれども、平成26年4月開校しました藤崎小学校についてですが、このときは平成24年7月に統合新校開校準備委員会を立ち上げました。その前にPTA総会、会長間の間で7年間も検討議論を続けて開校にこぎ着けた経験がございます。現在の遊佐小学校の教室数ですが、14では児童数501名と平成34年の複式が始まる時には教室が足りないということでプレハブを建てるとなると保護者の皆さま方が納得いかないのではないかと思いますので、まず予算を確保していただいて、それから設計、入札と工事、月日を要しますので、34年のこれからの3年間では難しいのではないのでしょうか。それとも、さんさんプランに囚われずに文科省の標準学級数40人とすれば14教室で間に合うと思います。それより何よりも、平成34年に当事者となります現在、幼稚園、保育園通っていらっしゃる方々の保護者の方々からのご意見要望等を伺っていただき円満な統合へ向かっていただければと思います。

眞嶋委員 稲川の眞嶋と申します。私の方でもいろんな意見がでましたけれども、6月15日に創立記念がありまして、同窓会と教育後援会の集まりがありまして、その時に色んな意見を聞いた。私も、藤崎小学校が統合してから5年なりますけれども、今20人くらいのクラスで授業参観を見させていただいた。すごい子どもたちも意見を出したり元気ですごく活動しております。やはり少ない人数でできないようなこともみなやっておる、合併は大変よいことだと私は感じてきました。それから中々色んな意見がでました。1つのことにまとめるということは大変難しいと私は感じてきましたので、色んな意見にすぐに結論は出せないという感じで伺ってきました。

佐藤（憲） 委員 遊佐地域づくり協会の佐藤です。地域づくり連合会の代表をしておりますので、私は前回の5月25日の会議を受けて、翌日5つのまちづくり協議会の会長に訪問をして、今日の6月28日の第3回の委員会は現行の各地区の課題の議題になる、それぞれ代表とされている意見が、個別的個人の発言ではなく、現在想定される考え方で発言をしましょうという想定で今日、6人の委員は発言していることを冒頭に申し上げたいと思います。遊佐地区においては6月15日に区長会役員そしてまちづくり協議会役員、事務局の8人で話し合いを致しました。現時点では前回も申

し上げました通り、最初に取り決められている部分の新たな複式学級を作らない方向で現時点の考え方に変わりありませんが、今回、収容人員の問題ができました。その部分については莫大な予算を投じてそして強引にやる必要そういう認識には遊佐としてはなっておりません。あとは各地区のまちづくりの事業、小学校の伝統的な事業の部分で話題にしてあります。当然学校の事業については四大祭も含めてそれぞれの伝統的な行事は地域の熱意と現時点での小学校の保護者が統合になってもこれは続けたい事業がいっぱいあると思います。それは続ける方向で検討すればいいのではないかと結論に達しております。逆に遊佐については6つの将来的には地区から遊佐小に集まります。そうなったときに遊佐のまちづくりでやっている事業、遊佐小学校でやっている事業は新たな問題が出てきますが、遊佐地区においては、例えば四大祭の本願寺の事業があります。それは、今は4年生がやります。あるいは各地区もう3つの四大祭があります。例えば吹浦の事業は2年生が行くとかあるいは藤蔵祭は3年生が行くとかそうすれば、現行の遊佐小学校であると4年生しか本願寺の事業に関わることができなかつたのが、1年生から6年生までのうちに四大祭はそういう方法があるのではないか。だから統合することで全部無くなる視点にはたっていない。それから当然地域づくり協議会連合会で調整すべきことはいっぱいあります。例えば運動会、それから公民館まつり、これらについて住民運動会については統合に向かって色々ありますが、少なくとも、事業ではありませんが、6つの地区の中学生が同じ日に別れてそして午前中、そういう形で順調にいます。それから公民館まつり、各まち協とも2日間、1週間前後か1日ずれた形でやっていますが、これは準備期間中の間に遊佐、高瀬、全部だぶらないようにしましよとか調整期間を設けることで、そういうところを遊佐地区で話し合いをしています。それから西遊佐でも出ておりました、現在のPTAの話し合いのみならず、これから統合になる時の1年生のお母さん方、つまり現行の保育園の親方、その意見は吸い上げたい。だからそれがまち協主導でやるのか教育委員会主導でやるのか分かりませんが、その意見は大いに将来的にはなるのだと情報伝達をしてそういう方々の意見も吸い上げた方がいいということが話題になっております。ぜひ皆さんとともに共有して行ければと思います。あと1つ、この1ヶ月、それらのPTAで何もしない小学校のPTA会長がいるが、まち協は真剣にそういうことを考えているのでPTAも1ヶ月間もあつた、何かそういう取り組みをぜひしてほしかった、これは切なる要望です。

太田委員 蕨岡地区の太田です。蕨岡地区は5月30日に全部の区長、役員とはいきませんが、代表の方と区長会長、婦人会、限った人数ではありましたが、意見交換会を持たせていただきました。まず「遊佐町1小学校の統合なのであれば、あまり抵抗はない。反対ではない」という大まかな結論だったような気がします。そして「統合年度を平成34年になるのか35年になるのか、その辺ははっきりしないわけですが、目標見たいみたいなものを決めてそれに向けての準備をしていくべきではないか」「こんなこともあるからだめなんじゃないかとか、そういう風なことをやっているとあまり進まないのではないか」という話になりました。そうであるならばどんなふうにしていった方がいいのか、色々あると思いますけれども、その時に出たのは、今までの意見と少し違って驚かれることと思いますけれど話があつたことなので発表します。まず1つは「学級数が足りない、遊佐小学校の現在の施設では足りないのは分かっているわけなので、年度が決まってそれに向けて進むとい

うことになれば足りないクラスは遊佐小の敷地内のどこかに例えば増設とかプレハブは嫌なんだけれどもプレハブはどんな規模になるのか、そんな形で対応して行くことも1つであろう。」もう1つは、「5、6年生は統合年度から遊佐中学校に通わせてもいいのではないか。いずれ現中学校の校舎に小中学校の生徒が全部入れるような人数になるという、悲しいことではあるけれども、そのように児童数が減っていくことは目に見えているので、そこまで統合を待つということではなくてとりあえず5、6年生、仮定ですが、どこかの学年からやって、現在の遊佐小学校ともう1つという風に進めることができるのではないか。」という意見が出されました。今2つの例を挙げましたが、そのような経過を経て、小中一貫校にしていくことも遊佐町の流れとしては、自然な流れではないかなど話がまとまったような形です。なるほどねと全員が同じ考えて同感ということではありませんけれども、色んな工夫で解決できるという感じの話し合いになりました。地域の特性は6つの学校、学区、あるわけなので、それはやっぱり全体でやるべきものとどうしても佐藤（憲）委員から出ましたが、「地域独自の行事として残すものもあるし、学校全体として遊佐町全体として取り組むこともできるのではないか。」「とにかく準備や指導の研修を深めてきめ細やかに授業ができるように、それから落ちこぼれとか学力差で失敗したとか困ったことが出ないような準備だけは進めていったほうがいいのではないか」と話し合いになりました。

伊藤会長

いろいろありがとうございました。私も西遊佐地区のまちづくりの会の会長という大役を仰せつかっている立場上、今のこの問題に対して今日の審議会で西遊佐地区のということで伊藤（悦）委員から先ほどお話がありましたけれども、区長の皆さんに個々に面と向かったり、電話なりで意見等を聞かせていただきました。1番強烈に印象に残ったのは、西遊佐小学校と稲川小学校が統合する前です。やはり反対した地元住民がいらっしやいました。強烈な反対をした。そういう方にじかにお話を伺わせていただいたところでございます。その方は学校に昔から地域講師として、言わばあの当時西遊佐小学校があった時に先生方はそういった地域講師をゲストティーチャーと呼んでました。そういったことで、花の先生、畑の先生、松の先生とかというように本当に学校と、子どもたちと接する機会が多かった方々でございます。そういう方の中で私に言われたことを要約しますと、やはり統合するということに対して、地元から学校がなくなるということは本当に悲しく、寂しさも計り知れない感情が湧きあがった。地域と学校の関わりが薄くなるのではないかとということも含めて、ましてやあの当時は稲川から吸収されるのではないかと、冗談ではないと声を大にして反対をしたそうです。しかしその後も学校との関わりがございましたけれども、年々西遊佐小学校の児童数が減ってきました。しかしながら減っても少人数でも、素直で優しい子どもたちということで本当にビニールハウスで育てられているような本当に優しい感じの子どもたちでしたけれども、何か欠けていると感じたそうです。やっぱり子どもらしさがあるが、この「らしさ」というものがなんか欠けているのではないかと、このままではあまりにも子どもたちがかわいそうでちょっと先行きが不安になってきた。やはり人数が少ないということのデメリットを感じたのではないかとという風なことで、「統合はやむなしというような判断のもとに統合への協力者の1人として自分も応援することにしました。」と「なぜもっと早く統合しなかったのか」と逆に賛成してから痛烈にその反動が来たと、やはり今も藤崎小学校に従来と同じように出向いています。子どもたちと数

多く接しています。まだ地域奉仕努めています。やはり西遊佐小の子どもたちって本当に優しくて、憎めない子たちだとほわんとしてる感じだが、今、藤崎小学校に行くとやっぱり目が違う、目が輝いている、生き生きしている。やっぱりこれは学んでいるからだと思えていてよいでございます。これから統合に向けて話し合いをしているわけですが、自分の希望としては遊佐町の小学校は早急に1つにするべきではないかとその理由は、部分統合をすると黙ったって児童数の少ない小学校になってしまう。時代と共に、そしてそういう少なくなった小学校から今度一気に中学校に上がる、そうした場合に少ない学校の卒業生が荒波にのまれる様な形で中学校に進むわけです。その上で子どもたちの驚きとか不安とか迷いとか受け入れられない、挙句の果てにはいじめというようなことが多発される可能性もあると思う、ということで、「地域のエゴは絶対するべきではない」反省の言です。そういうことで「自分としては、統合の経歴をふり返ると遊佐小学校は1つにするべきだ」という風に思っておりますのでぜひ審議会でもそういうお話を話しかけていただきたい」と承ってお話させていただいておりますのでよろしくお願い致します。

以上皆さまからお話を聞かせていただきましたが、

教育長 補足したいこと。言い足りないこと。

伊藤会長 言いそびれたことがありますか。

今野委員 先日保護者の意見交換会をしました時、集まって来た保護者の中に、現在複式学級になっている保護者が結構多くいらっしゃいました。その中で当事者となったわけですが、今現在の蕨岡の複式学級については正直なところ、「複式はだめ」と言われていたものとは全く違う。逆に保護者たちにとっては教えてくれる先生が担任の先生だけではないということももちろんありますが、そういった面でのメリットをすごく感じている。ただ複式をずっとやりたいということではなくて、致し方なく複式にはなりましたが、学校の先生方の進め方によっては通常のクラスと同じような進め方をしていただけるケースが出てくるのではないかと話が出ていました。決して人数が少ないから複式になったということではありますが、我々は保護者にとっては複式学級になったことを悲しんでいるという状況ではないです。複式学級の中でもメリットを最大限に生かして学校の活動も、先ほど人数が多い方がいいというご意見も多数いただいておりますが、少ない中でも工夫次第では、上の学年、下の学年と一緒に行動ができるわけですからそういった部分もきちんと計画立てることによって、「複式イコール昔で言うあまり好ましくないもの」というようなイメージは現在の保護者たちには無くなったと、実際感じているところだと思います。当初、1つの学校にという話のところでもネックになっていたのが、「34、35年度複式が発生するかもしれない」ということだったわけですが、だんだん人数が少ないことが悪い事のような話になってきて、ただ小規模校には小規模校のメリットがあるわけですから、それを踏まえたところで今後どうしていくのか話し合っていくべきでないかと思いました。

伊藤会長 ありがとうございます。その他ございませんでしょうか。

以上皆さんからお話がありました。

まとめますと、1番気にかかった面は、1つになるにしてもハードの面、教室の部分はどうなるのか、というような問題点とそれから地域との関わり合いが心配、このような発言がクローズアップされたような感じが致します。そういったことも含めまして、教育長からよろしくお願い致します。

貴重なご意見ありがとうございました。そして地区、学校のPTAの声も少なからず反映させてご意見をいただいたということで1人1人のご発言ご意見ごもつともだと思っております。どなたかから長い先を見ればということで、今、複式が始まるのは34、35年が見えている。でも私たちはその先、10年後はどうなるのか、今、スルーしたからまた同じ問題をどこかの時点でしなければならない時点に来るでしょう。その前の我々の取りまとめの学校の歴史を見ても、スルーしてスルーしてきて、今苦労している。真剣に長い先を見据えてタイミングはどこなんだろうと、その通りだと思います。学校のキャパの問題もありましたし、地域との関係というのは学校から見れば教育課程の問題です。それぞれの学校の長、取り組みがある、それを全部取り入れたらそれは1週間毎日勉強しても足りませんのでどこか精選しなければならない。一緒にしているものもあるでしょうし、地区にかえていただいで、逆に今地域のまちづくりでそれぞれがんばっていただいているわけですので、そこでまた生かしていただくとかそういうことの切り替えもしていかなければならないことも来ると思います。それからもう1つは、バスとか放課後子ども教室の問題は解決できる問題だと思いますけれども、地域のまちづくりという問題が出ました。まちづくりという場合に今地域と共にある学校に遊佐町はできていたんだけど、これはとってもいいことだから、どんなに若い人の世代に変わってもこの遊佐町の地域に開かれた学校以上の地域と共にある学校と伝統の良さは残していきましょうと更にいいものにしていきましょうということでコミュニティ・スクール、昨日遊佐中学校も始まりました。あと吹浦小学校が来週です。それで町内の5小学校1中学校が全部コミュニティ・スクールになります。全国的にはどんどん増えてきているということですが、高等学校もコミュニティ・スクールするところもどんどん増えてきています。まさに遊佐高等学校なんかコミュニティ・スクール以外の何物でもないとは見ている。そんな中でなんでコミュニティ・スクールを立ち上げたかという思い、今も6地区の中で学校を一緒に大事にしていきたいとの思いと、やがて長い先を見れば1小学校になる時点は来るでしょう。その時に遊佐町としてのコミュニティというものを形成して、遊佐町が生き残っていくという正念場の時代が来るでしょうねということ。10年先、20年先見ればまさに消滅地方都市が何個もある。センセーショナルに言われて何年か過ぎているわけですが、従って私は折に触れて述べていますが、小学校はどうするかという問題は遊佐町全体がどうやって豊かに生きていくか1つの柱だと思っております。ですからキャパの問題も含めて遊佐小学校ということで、皆さんも一任をしているところですが、もしそうだとすれば学校名をどうするかから始まるべきだと思います。遊佐という名称は残すことになる。遊佐町立遊佐町小学校になっても私は不思議じゃないと思う。例えばの話。そんな思いでまちづくりということをもっと広い幅をもって考えていくこと、これからの子どもたちが大人になった時は、6つの地区の良さも生かしながら町全体でどうやって持続可能な地域づくり、まちづくりをしていかなければならない時代が来るのではないかと考えております。その点はこれから具体的なところで話をしていかなければと思います。それで長い目で見れば視野に入れるのはタイミングをどこにするかということ。先延ばしはよくないことだと思います。また同じ議論が何年か後に出ると思います。決して34年35年にこだわらなくてもやっぱりこういう時点で小学校を1つにして新しいコミュニティの一種で鳥海山をバックにシンボルでなくて、これはもっと先のランドマーク、発

信していく、時代を見据えていくことになると思います。キャパの問題が出てきました。町もそんなに財政が豊かではありませんので、新しい学校を建てる発想は全くありません。でも教室が足りないのであれば、いずれの時点で、きっぱり収まるまで待つのではなくても、これは私の個人的な意見ですが、遊佐小の中には空いているスペースがあります。ランチルーム、あそこはそんなに使ってない。ですからあそこをうまくすれば、教室2つあるいは3つは入るかなとか、それから低学年の棟の奥の方の図書館がものすごく大きいので奥の方に教室を2つないし3つできるかなとか、2階工作室、工作は教室でもできますし、オープンスペースのある学校です。ですからそれくらいのスペースはあちこちにあるので、工作、絵を描くのに工作室でなければならないこともないので、あそこの黒板両面にありますので教室2つはできるかと、そのようなスペースをうまく活用すれば4つあるいは5つの教室は作られるかなという思いはあります。その辺はプレハブでという思いもありましたしその辺は議論するところだと思います。キャパの問題、まちづくりの問題、何よりも教育課程の問題。ここが1番だと思います。まさに地域の先生が、西遊佐が稲川と一緒になってもまた元通り活躍していただいているということですので、今全地区にゲストティーチャーと西遊佐では洒落た名前と呼んでいたようですが、地域の先生ということでもどの学校でも活躍していただいています。コミュニティ・スクールをきっかけに全町のゲストティーチャー、地域の先生方がどういう方がどういう活躍をしているのかと全部一覧表にまとめてデータ化しています。そうすれば色々な方々から支えていただけることも可能になってくる。ただ蕨岡小学校の会長から複式学級になっても、先生方ががんばっていると思いますし、色々なシステムを駆使してそんなにマイナスイメージだけでなく動いているとありました。もちろんそのことも踏まえながら、だから34年35年と1つのターゲットを見ながらもやっぱりこの時期には1つの学校にまとめるべきではないかとそういう方向で検討しましょうという多くの皆さんの地域の声をお聞きしました。そしてPTAの懇談会でもありました、行くときは準備に時間をしっかりかけて欲しい。この時期には1つにまとまりましょうとそして新しい学校の在り方、まちづくりの在り方を見据えて議論していきましょうということで、今日聞かせていただきました。大変ありがとうございます。総務課長も遅れてきましたのでキャパの問題、町でちょっと予算出して整備できるのかという声がほとんどだった。財政の方でも頭に入れていただいて、今度教育委員会と真剣に予算を交えて議論して「こういう整備の形は可能です」とそんなことを具体的に提案していければと思っております。今日いただいた課題を整理して次回、その次に……。平成34年35年にこだわる必要はないと思います。そこを視野にいれながら、そうしますと若干複式学級で行かざるおえない年度ができる学校が出てくるわけです。高瀬も1名増えて15が16名になった、また来る可能性もある。蕨岡も1人増えて17名までいった。吹浦も去年までは複式になる数字でていたが増えている。その辺も見据えながら、また必ず、今年度生まれる子どもたちの数字が年度末に出てきます。その次も出てきます。決して増えていくとか大幅に増加するとか、そう言う数値にはならない。遊佐町としてそうあってほしいわけですが、そうはならない流れだと思います。要は、いずれタイミングを見て、時期を見計らって1小学校ということで議論を進めていきましょう。そして、準備の期間を十分にとって、今日出されたキャパの問題であるとか色々なことを議論していきましょう。確認させていただきたいと思います。

伊藤会長 ありがとうございます。教育長のお話でハードの面も前向きに力強くお話いただいたように私は感じました。そういったことをベースにしまして、次回からは諮問の内容にも揺っています、1校ということを決めて、そしてその上でそれにまつわる付帯事項を審議会の中で揉んでくださいという諮問内容でございますので、今日皆さんの貴重なご意見をいただきまして、そしてまた教育長からは懸案となっている問題点に対するご回答的なもの、考えを賜りましたので、1歩前進、2歩前進したとこのように感じておるところでございます。

教育課長 皆さま方から意見をいただきまして本当にありがとうございました。諮問の中では、答申の内容として具体的な統合時期について協議をしていただきたいというところではございましたが、今教育長のお話もありまして、まとめの方に言うておりましたので、次回そういった具体的な統合時期等について検討していただければと思います。どうしてもここ数年のところについては、昨年度29年度までに生まれた方の部分の将来推計までしかできないわけではありますが、それ以降の10年20年先を見据えていただきまして、その時期等については協議をお願いしたいと思います。先ほど教室の不足の部分も話題になっておりますが、そこはあくまでも町の方の問題でありますので、皆さま方からは適正整備審議会の意見として、答申として「子どもたちにとってどの時期に統合するのがいいのか」というところを協議していただければと思っております。ハードの面は付帯事項の方にも含まれてまいりますので、そちらは再度大まかな点について地域の行事との絡みもございまして、再度皆さま方からご協議いただければと思っております。今日の協議につきましては、以上でよろしいかと思っております。

伊藤会長 皆さまいかがでしょうか。

那須委員 すみません、最後に申し訳ないですが、先ほど、蕨岡の太田さんから1つ案が生まれて、5、6年生を中学校の校舎でと仮定の話がありましたので、来月に3役会理事会がありますので是非、中学校に持ち帰って皆さんの意見も聞いてみたいところもありますので、そういったところで夢が叶うのか、そういうところも意見を聴取したいと思っております。

今野委員 次回まで結構ですが、先ほど教育長からも34年35年にこだわらないというお話もちろんありまして、その間に複式が発生してしまう学校があるかもしれないというお話もございましたので次回までに確認していただきたい点が1つあります。例えばこの資料1、推計なのでその通りにはいかないと思いますが、38年で15クラスと想定しているわけですが、ここから2年3年後くらいになるとたぶん現在の小学校のクラス数14クラスで入りそうな感じもあるかなと私は見ていました。例えばその時期を前倒しするに当たって建物を改修するのに対してお金を拠出するということもあるが、例えば40年ごろに入れると想定した場合、複式学級が発生する学校が出てきます。その建物に改修に要する予算ではなくて、複式学級を解消するために、例えば、臨時の職員とか国の方の配置は決まっているので無理かと思うが、例えば、その建物にお金をかけるのではなく、1つの学校に入れるクラス数にこの後3年くらいでもしかしたらなるのかなというところなので、一時的に複式学級が発生した場合、複式学級を解消するために町として、教職員を雇うという言い方は変ですが、1人増員することが可能なかどうか、そこの部分について検討していただければよろしいかなと思います。

教育長 今、回答できます。それは、それをやってしまうと「町でそんなに財政があって、先生を雇えるのであれば、さんさんプランもいれさせません。国の国庫支出金も出しません」ということで先生1人雇うとどれくらいか皆さんご承知だと思いますが、そんなに遊佐町余裕があるのでは国・県は切りますよ。遊佐町でできるのは支援員として授業する担任の先生ではなくて、サポーターとしての支援員はできますけれども、教員を増員すること、それは考えていません。

今野委員 そうしますと、34年前に統合しないと複式は解消されないと考えるしかない。
教育長 複式学級になりますが、例えば支援学級があればいいということではなくて、もちろんそういうお子さんがいればしなければならないけれども、この前お話ししたと思いますが、複式学級等も入れて6学級あると先生が2人来てくれる。それが微妙なところ。2人吸い上げられると相当きびしい。蕨岡はその恩恵があるからまだまだそういう意味では、先生ももちろんがんばっていますが、そここのところも微妙な差があります。教員を増やすということは相当、ですからどの地区でもそういう課題がありますが、全国的に見れば特殊な例で若干あるのかもしれないが、それは国や県で認めないということでご理解いただきたい。

もう1つ、小中一貫のことがでましたが、遊佐町議会の皆さんも京都に、色んな定住促進等の課題もあって視察に行くのですが、京都市に行きたいと言ったら京都市は全部の小中学校がやっているから、たぶん色んなところから来るので忙しいと断られました。近くの宇治山田市に小中一貫の勉強に議員の皆さんが行かれるということでした。我々も全国的にそういう流れ、コミュニティ・スクール、小中一貫はいずれ来る流れ、鶴岡では中高一貫で議論していますけれども、小中一貫ということは勉強していく必要のある中身だと思っていますのでご理解いただきたいと思います。

那須委員 その際の仮定ですけれども、今遊佐というのは、5小ある。5小が、小中一貫で1度と一緒になる、他の地域もそうだが、例えば、私の理解としては、遊佐小が遊佐中に小中一貫で入る。1つの小学校と1つの中学校が1つになるという感じ的には壁が無いように感じるが、やはり5小が1小になるのは、そんなに小学校単体では壁が多くあるようには感じない。5小が1つになると一緒に中学校も1つになる。

教育長 1小、1中になったとき。

那須委員 そうです。仮定として。

教育長 色んなパターンがあるようですがそういうパターンが1番多いようです。

那須委員 ただ多くの小学校がまたがって。

教育長 またがってもあります。A小、B小があってC小もあって中学校が1つ。そういうパターンもあります。

那須委員 ありがとうございます。

伊藤会長 他にございますでしょうか。それではないようでございますので、
②具体的な統合時期等については次回ということでご了承いただければありがたいと思います。

今日の審議会はこの辺で閉じさせていただきます。

事務局お願いいたします。

教育課長 慎重審議ありがとうございました。（5）その他に入りたいと思いますが、次回の日程として7月25日（水）午後7時から予定させていただきたいと思っておりますので、委員の皆さま方よろしくお願いいたします。なお第2回の会議録

につきましては会議録署名委員として松本先生と太田委員をお願いしておりますのでこの会終了後にサインをお願いします。今回第3回の会議録署名委員は名簿の順番で佐藤（憲）委員と眞嶋委員をお願いしたいと思います。それでは次回、承認を得てから署名という形をお願いしたいと思います。以降順繰り回っていきますのでよろしくお願いいたします。

それでは本日は第3回適正整備審議会の慎重審議いただきましてありがとうございました。次回7月25日またよろしくお願いいたします。

以上で今日の会議を終了させていただきます。本当にありがとうございました。